

●札幌市指定 有形文化財

清 華 亭

- 所在地 札幌市北区北7条西7丁目
- 建築年代 明治13年
- 指定年月日 昭和36年6月7日
- 管理者 札幌市 TEL746-1088

Sapporo Cultural Property
Seikatei

Seikatei was built in 1880 as a reception hall for distinguished guests. It is located in the area once called Kairakuen Park.

この建物は、明治13年、札幌最初の公園である偕楽園^{かいらくえん}内に、開拓使の貴賓接待所として建てられた。設計、監督には、開拓使工業局が当たった。当時としては新しい様式を取り入れた建築で、開拓長官黒田清隆^{みずきせい}によって「水木清華亭」と名付けられた。明治14年9月1日、明治天皇行幸の際、ご休憩された由緒ある建物である。

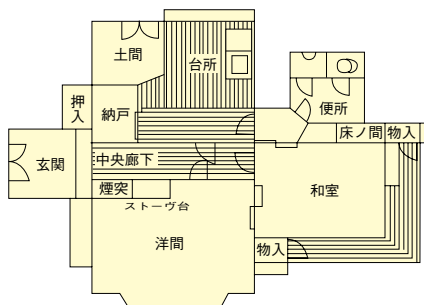
明治19年、北海道庁設置とともに、民業発展を計る目的のもとに清華亭は、偕楽園の他の施設とともに民間に払い下げられ、個人の所有となった。

昭和5年、北海道史研究家河野常吉は、この建物の保存を提唱して、市内有志により組織された保存会の所有となった。そして昭和8年8月、同会から札幌市に寄付された。市では庭園をととのえ、門および柵を設けて、往年の美しい清華亭の再現につとめ、その保存を図ったのである。

昭和8年11月3日、清華亭は「史蹟明治天皇札幌小休所」として、史蹟の指定を受けたが、昭和23年6月、この指定は解除された。昭和36年、札幌市指定有形文化財となった。



清華亭



木造平屋建

洋室棟 切妻屋根、南北妻に妻飾

和室棟 屋根寄せ棟

外 壁 下見板張

延床面積 123.1m²

敷地面積 2,302m²



内部（和室）

この建物は、西側の棟を南北にとおす洋室棟と、これに直交した棟をもつ東側の和風棟とからなる和洋両様式の建物である。

面積は洋室棟の方が広く、和室棟の大棟にも洋風棟飾りをつけ、建物の外観は洋風に統一されている。しかし内部は、洋室に床の間様の棚をとりつけ、天井の中心飾りには桔梗ききょうのモチーフを採用するなど、和風化への意欲がみられる。

また一方、和室を広葉樹材で構成し、縁側腰は洋風でおさめ、室内に大壁を見せるというような洋風化を示している。いっぽう縁軒先を反り上げて、和風の趣をも追及している。すなわち建物全体を通じて、和洋の意匠が混在し、しかもそれが巧みに調和しており、開拓使の洋風建築中、後期の系列に属する遺構として貴重なものである。

なお、ベイウインドウ（張り出し窓）の採用は、本道初期洋風建築の中では珍しい例である。

清華亭の建築は、豊平館とほぼ平行してすすめられた。豊平館は当時の洋風建築技術の高さを示すものであり、清華亭は和洋両様式を巧みにとり入れた建築として、また時計台は米国中西部にみる実用建築をとり入れた建築として、いずれも我が国では類例の少ない開拓使建築の遺構として貴重である。



内部（洋室）



偕楽園絵図（明治中期）

偕楽園は明治4年、開拓判官岩村通俊によってシャクシコトニ川河畔で、かつ涌泉ゆうせんがある現中央区北7条西7丁目付近に、札幌で最初の公園としてつくられた。さらに明治12年、ルイス・ベーマーによって和洋折衷の庭園がつくられた。

園内には農業官園、仮博物場、サケ・マスふ化場等が設けられ、偕楽園は単なる公園ではなく、北海道の産業振興にも大きな役割をはたした。

清華亭は、この公園の小丘上に建てられたのである。